

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274200639		
法人名	有限会社 エムサービス		
事業所名	グループホームやよい苑(1Fユニット)		
所在地	静岡県静岡市駿河区登呂4丁目27-29		
自己評価作成日	令和3年5月15日	評価結果市町村受理日	令和3年9月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和3年7月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・登呂遺跡公園が目前にあり、とても環境が良く、地域資源に非常に恵まれたグループホームです。
 ・職員教育に力を入れており、資格取得・研修などでスキルアップを図り、地域に貢献できるグループホームを目指しています。
 ・御家族やご利用者様、職員との信頼関係を深める為に、年に1回親睦会を行っています。
 ・利用者様への支援として外出の機会多くしており、できる限り毎日、日光浴や散歩へ行きま

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

山茶花から始まった植栽は17年の年月を経て、もちの木・ろう梅・撫子・薔薇・紫陽花と季節の花々が微笑む庭となり、玄関では小さなガーデニングオブジェや鉢も出迎えてくれます。開所から長いため、目隠しカーテンの取り付けや床の張り直し、外壁の修復にも余念がありませんが、隅々まで清掃が行き届いていることには俄然目を見張ります。また「初盆にはお花を届ける」ことは慣習となり退所家族との交流が脈々と続き、「紹介してもらえ」ことも自慢です。利用者も法被姿で売り子になる「登呂祭り」はコロナ禍で休止されたものの、密を避けるためにも所内会議は地域の公民館を借りるなど関わりを継続させ、地域に存在感を示しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	社員証に記載。また施設玄関にて理念を掲示し共有を図る。 会議などでも理念の基本を話します。 ユニット会議に理念を記載し意識して貰える様行いました。	「意識して生活の中に定着させるためにはどうしたらいいか」を命題として考えており、会議や研修に係る書面へ理念を刷り込んでいます。また1Fユニットでは「利用者様主体」「丁寧な言葉をつかう」が出入口に掲示され、具体的行動に落とし込むに至っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	登呂公園散策が主ですが、運営会や、地域行事(登呂祭り)で地域との交流を図りながら、関係を深めています。 但しコロナ過に於いて今年度は登呂祭り中止等交流機会が減少しました。	コロナ禍で行き来はできませんが、散歩のときにはゴミを拾うことを続けています。密を避けるためにも会議は地域の公民館を借りて実施、「高齢の家族を見送ったから」と紙おむつなどの寄贈もあり、開設から17年の積み重ねが密む関係がみられます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営会議を中心として情報発信をしています。楽寿会(老人会)との意見交換も行き、認知症や介護の考え方を発信し、疑問・質問などにも応えています。 但しコロナ対応として楽寿会交流中止		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営会議を通して地域情報を得たり、御利用者様の状況を説明し、サービスの向上に繋げています。民生委員の方や地域包括の職員の方からアドバイスを頂いています。	運営推進会議は、過去6回の内3回が書面開催に至っており、未だコロナが収束していないため集まってじっくり話し合うことが叶っていません。町内会長のほか民生委員2名にも「介護情報は勉強になる」と言ってもらえていたのに、残念です。	書面をメンバーに配布後に意見をもらえるよう、写真やグラフ等2ヶ月の様子が伝わる内容としていくことを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営会議を通して地域包括の方と連携をとる事により、市との連携を図っています。 又、必要に応じて生活支援課、介護保健課、社会福祉協議会の方との連絡や相談、交流もあります。	ワクチン接種の手続きでは電話口で解決できない内容には折り返しくださるほか、土曜日にも連絡くださって(休日返上でやっているとのこと)、円滑に進み助かっています。また補助金(給付金)も追加手続きの手間などに配慮してもらっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止マニュアルを基本として身体拘束適正化委員会を実施し身体拘束防止に努めています。	身体拘束適正化委員会は3ヶ月毎に開催のうえ、議事録もファイル化されています。本件については身体拘束防止マニュアルに照らし、年2回の職員研修とともに、新採職員の研修も実施のうえ、職員の知識共有を図っています。	さらに適切な運用となるよう、指針をはじめ関係書面の整備、保管についてあらためて見直すことを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の講習内容を職員に情報提供する事により、虐待防止徹底を図っています。個別面接等も行いながら、職員のメンタルケアを合わせて行っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護と成年後見人制度について、講習内容を職員に情報提供する事により教育しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約業務は、管理者及び事務長が対応し利用者に対して理解納得を図る		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプラン作成時及び運営会で意見やアンケートをとって、運営会や各ユニット会議に反映させています。またコロナ過で面会が制限される中、事務強化を行い、ご家族の意見を取り入れる仕組みを強化した。	食事が摂れなくなって事業所だけでは解決できないケースでは、家族と連絡を取り合うとともに以前の施設や担当の介護支援専門員にも情報提供を求め安寧に結ばれたこともあり、利用者の変調に応じてこまめに動くことを旨としています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リーダー会議やユニット会議にて意見提案を聞き反映させています。その他個別面談にて、意見の収集を図り反映させています。	ユニット会議が夫々であり、リーダー会議と併せ3つの会議を通じて現場における意見収集が図られています。会議の場だけでなく、普段からあれこれ言い合う文化があり、また管理者と事務長、事務担当と3名が事務所にいることで随時相談できる安心があります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得に援助を行い意識向上を図っています。管理者・事務長にて契約更新を実施し、コンサルを必要に応じ参加していただき就業環境の整備に取り組む様になっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得等の援助及びユニット会議等で社内教育を行い職員教育に取り組んでいます。個別面接を通して個々の希望にも配慮しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修及び地域グループホーム協議会を通じて勉強の機会やコミュニケーションを図り、サービス向上の取り組みを行っています。但しコロナ過に於いて行われていないが関連施設等の交流は実施されている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期段階では管理者が中心となり各ユニットのサブリーダーを通じて、信頼関係を築いて安心確保に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期段階では管理者が中心となり各ユニットのサブリーダーを通じて、信頼関係を築いて安心確保に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期段階では管理者が中心となり担当ユニットサブリーダーや担当ケアマネにて支援方法の検討を行い、施設・地域ご家族等の介護等サービスの検討を行う。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	認知症介護の基本及びグループホームの持つ役割を教育し、利用者との関係を構築しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	運営会等を通じてご利用者様は、御家族と一緒に支え合う事を説明。ご家族へアンケートを書いて貰いご意見を聞きながら関係を築いています。また、スタッフの思い・ご本人の思いを含めケアプラン説明時にご家族に話し支え合う関係を築いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	特に入所時、関係者と協力し対応しています。	コロナ禍における面会に対応しようとQRコードを備えてリモート面談を可能としていますが、画面上の逢瀬を喜ぶ利用者ばかりではなく、思うように推進できてはいません。会えないことで家族に不安が募らないよう、まずは家族意見を集約する工夫を図っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	御利用者様個々の状況を把握し、御利用者様同士が関われるよう努めています。難しい方には、職員にて対応して孤立しないように配慮をしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	移転先等にも伺い関係を継続するようにしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ユニット会議やケアプランを活用し 思いや意向の把握に努めています。		「どんな価値観をもって生きてきたか」を掴むことに重きをおき、入居時における初期段階の聞き取りを大切にしています。基本状況を整理した「家族問診表」は、職員もバイブルとして活用しており、回想して共有するキーワードや同調を導きだせた事例もあります。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初期段階は責任担当者により聞き取りを行います。(アセスメントシート)その後は担当者及び他のスタッフがユニット会議等で御利用者様の言われた事を共有し把握するよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活様子にて各利用者様の状況把握を行い、 ユニット会議やケアプランを活用し、スタッフで共有しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当ケアマネジャーがリーダー会議及びユニット会議にて情報把握を行い、モニタリングにおいてもスタッフの記録を参考に情報収集を行い、介護計画を作成していきます。またご家族に対してケアプランの説明時要望の聞き取りを実施する。		ユニット会議でカンファレンスを重ね、職員意見を精査して各ユニットの計画作成担当者が介護計画書を作成しています。できた時点で家族には電話で連絡をおこない、時間のあるときに事業所に立ち寄ってもらえるようお願いして、直接話すことを大切にしています。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日報記録を基に生活チェックリストを作り支援し、ユニット会議で御利用者様の状況を把握して、職員間で情報を共有し、介護計画の見直しや、生活チェックリストの見直しをしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	スタッフの配置に考慮し、柔軟に対応する状況を構築しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	登呂遺跡公園や地域の人達とのふれ合いにより、支援をしている。又近隣の商業施設の利用も図り支援を行う。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及びご家族の希望を基本として受診援助を行っています。それ以外の御利用者様も当苑協力医院の往診を受け、安心した支援を行うよう努めています。	月2回の訪問診療を利用者は受けています。小分けのグループでの診察で、医師は月8回事業所に来所しているため、むくみや熱発の相談が随時でき、また新型コロナワクチンについても足を運んでくださり、利用者は静穏の中で無事接種を終えています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当苑職員の看護師と協働し行っています。その他かかりつけ医の看護師や地域包括の看護師との意見も頂きながら支援をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関を通して行っています。又、管理者・ケアマネによる病院との連携やご家族からの聞き取り等により支援しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時重要説明書にて内容の説明を行い、現実に発生しそうな時、担当者より再度具体的に説明を行い支援に努めています。基本的に御利用者様御家族様と協力して行う事を原則としています。	此処2年で癌末期、老衰などで看取りは3例ありました。「診察中でも電話にでももらえる」「携帯で直接つながることができる」「救急判断を仰げる」と、職員の安心につながる体制があり、現在の協力医の支えを以て穏やかなお見送りが叶っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	基本的に医療行為については協力医療機関と連携を図り対応をする。事故発生時はマニュアルやAED取り扱いを参考に実施する。訓練は年二回防災訓練時に実施		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練等で実践力を身につけるように努めています。	安全確認と持ち出し用品チェックのみで「戸外にはでない」縮小版ですが、「準備なしでやろう」と、「臨機に対応できるか」を本年度は見直しています。公園前でもあり地域貢献も踏まえAEDを設置、また福利厚生も兼ねウォーターサーバーも導入しています。	2階には車いす利用者が3名いることもあり、スプリンクラーの貯水槽、プロパンガス、太陽光パネル、食糧備蓄など地域に提供できるものについてアピールを工夫して協力関係が進むことを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	経営理念や施設理念等にて教育を行い実践する。	勤務年数の長い職員もいるためか、総じて馴れ馴れしい言葉遣いがみられます。事業所としては適切なケアを目指して「その人の正しさ」がどこにあるかを紐解くことに重きをおき、「利用者次第(本位)」で職員の対応に違いがでることは受容しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の意見を聴く機会を設ける。 リーダー会議・ユニット会議により支援につなげる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の意見を聴く機会を設ける。 リーダー会議・ユニット会議により支援につなげる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様やご家族の意見も取り入れながら実施する。又外出援助を行うことで身だしなみやおしゃれに感心が持てるよう援助する		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	グループホームの特性を生かし 同じ空間にて調理を行ったり、出来る範囲で準備のお願いをしながら食事を楽しむ工夫を実施する。	職員が考えた献立に基づき3日分の食材をスーパーマーケットへ買い出しに行く、創成期のグループホームの姿を残す安全安心の食体制です。家庭の主婦と似た感覚で「シチューの次にカレーとなるのはやめてね」「副菜を必ずつけてね」と声をかけあっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護記録により日々の食事量の把握を行う。 個別対応としては関係者からの聞き取りやDr・Nr等の医療的意見を頂き援助を行う。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	御利用者様に応じて、できる方にはご自分でして頂き、自分で出来ない方には、マウスウォッシュ等を使うがい歯磨きの支援をしています。 その他必要に応じて訪問歯科受診援助を行っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様の排泄を考慮し声掛けや誘導援助を実施しオムツの使用を減らすことを目標として自立支援を目指す。	尿意があって自力歩行できる人は6名います。他は介助が必要で、排泄チェック表もつけてリズムをつかみ、トイレでの排泄が円滑になるよう支援しています。安眠優先でパットを大きいものに替えたり、種類も状態に合わせて検討しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の配慮や水分摂取に心掛け、医師や看護師との連携を図り便秘予防の対策を行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	グループホームの特性を生かし ゆっくり入浴できる支援を行っています。	「散歩に充てたい」として入浴タイムを午前とし、3日に1度を清潔の目安として入浴介護をおこなっています。着脱着衣を身体の状況確認の機会とし、内出欠や皮膚疾患、むくみを早期発見しており、勤務の看護師を通じて医師との連携も速やかです。	「ゆっくりできる」ことが一番で、次に「清潔衛生」ですが、できれば「楽しみ」もさらに増えるよう、個々の要望を引き出していくことを期待します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	よく理解して御利用者様に合った支援を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	御利用者様をよく観察し、長期安定している時は、薬の事を医師に相談して減らして貰ったり、その都度症状により医師や看護師に相談し対応しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	よく理解して御利用者様に合った支援を行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	登呂遺跡公園、近隣ドラックストア、スーパー等にスタッフが臨機応変にお連れし、支援しています。	好天なら散歩を実施するほか、小さいながらも木々に囲まれた庭先での外気浴は恒例です。ジュースを飲んだり、法人グループ内の店舗からシフォンケーキも届いています。近くの薬局に職員と二人で出かけたたり、降りないドライブでコロナ禍における工夫もあります。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お財布にお金が入っていることで、安心すること等ご利用者様の思いを伝えご家族にご理解を求め支援を行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様が要望があった場合には電話、手紙の支援を行います。その際外部に迷惑の掛からない配慮も併せて行います。又年賀状等ご家族の支援もお願いしております。昨今はコロナ対策としてLINEを活用しご家族とTV電話を取り入れました。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある絵や飾り、壁に折り紙で作った壁紙、デジカメで撮った写真を加工修正したもの等、スタッフの個人の技術や感性を活かし工夫をしています。	高齢となり「横になっていたい」人が増え、また「好みの番組を観たい」という人もいて、自室で過ごす人が多くなってリビングの密が幸いにも回避できています。それでも、「テレビが小さいと角度によっては見にくいし、オリンピックも近いね」とテレビを追加購入しています。	コロナ対策の衛生管理は、職員に負担をかけないようにとの配慮から事務員と管理者でおこなっていますが、時間毎の換気など軽微で意識継続につながる作業を職員がおこなうことも検討されるとよいと思います。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ユニット会議等にて検討し個々の食堂にての過ごし方やそれにより席等について検討を行い、居場所づくりに対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時ご家族や関係者より情報を頂き使い慣れた物や大切な物を用意していただくよう配慮させていただいています。その後はご利用者様に尋ねながら対応をしています。	年齢とともに足腰が弱くなり、転倒が心配となれば、本人の動線を考慮してつたい歩きができるように変えるということは日々あります。また、利用者が触って倒れることがないよう、テレビなどは職員が手作りで固定させています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の状況を踏まえ掲示物・のれん等にて不安を与えない工夫や手すり等にて安全に移動・移乗できるよう配慮し環境整備を行っています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274200639		
法人名	有限会社 エムサービス		
事業所名	グループホームやよい苑(2Fユニット)		
所在地	静岡県静岡市駿河区登呂4丁目27-29		
自己評価作成日	令和3年5月15日	評価結果市町村受理日	令和3年9月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	令和3年7月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・登呂遺跡公園が目前にあり、とても環境が良く、地域資源に非常に恵まれたグループホームです。
 ・職員教育に力を入れており、資格取得・研修などでスキルアップを図り、地域に貢献できるグループホームを目指しています。
 ・御家族やご利用者様、職員との信頼関係を深める為に、年に1回親睦会を行っています。
 ・利用者様への支援として外出の機会多くしており、できる限り毎日、日光浴や散歩へ行きま

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

山茶花から始まった植栽は17年の年月を経て、もちの木・ろう梅・撫子・薔薇・紫陽花と季節の花々が微笑む庭となり、玄関では小さなガーデニングオブジェや鉢も出迎えてくれます。開所から長いため、目隠しカーテンの取り付けや床の張り直し、外壁の修復にも余念がありませんが、隅々まで清掃が行き届いていることには俄然目を見張ります。また「初盆にはお花を届ける」ことは慣習となり退所家族との交流が脈々と続き、「紹介してもらえ」ことも自慢です。利用者も法被姿で売り子になる「登呂祭り」はコロナ禍で休止されたものの、密を避けるためにも所内会議は地域の公民館を借りるなど関わりを継続させ、地域に存在感を示しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	社員証に記載。また施設玄関にて理念を掲示し共有を図る。 会議などでも理念の基本を話します。 ユニット会議に理念を記載し意識して貰える様行いました。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	登呂公園散策が主ですが、運営会や、地域行事(登呂祭り)で地域との交流を図りながら、関係を深めています。 但しコロナ過に於いて今年度は登呂祭り中止等交流機会が減少しました。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営会議を中心として情報発信をしています。楽寿会(老人会)との意見交換も行き、認知症や介護の考え方を発信し、疑問・質問などにも応えています。 但しコロナ対応として楽寿会交流中止		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営会議を通して地域情報を得たり、御利用者様の状況を説明し、サービスの向上に繋げています。民生委員の方や地域包括の職員の方からアドバイスを頂いています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営会議を通して地域包括の方と連携をとる事により、市との連携を図っています。 又、必要に応じて生活支援課、介護保健課、社会福祉協議会の方との連絡や相談、交流もあります。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止マニュアルを基本として身体拘束適正化委員会を実施し身体拘束防止に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の講習内容を職員に情報提供する事により、虐待防止徹底を図っています。個別面接等も行いながら、職員のメンタルケアを合わせて行っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護と成年後見人制度について、講習内容を職員に情報提供する事により教育しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約業務は、管理者及び事務長が対応し利用者に対して理解納得を図る		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプラン作成時及び運営会で意見やアンケートをとって、運営会や各ユニット会議に反映させています。またコロナ過で面会が制限される中、事務強化を行い、ご家族の意見を取り入れる仕組みを強化した。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リーダー会議やユニット会議にて意見提案を聞き反映させています。その他個別面談にて、意見の収集を図り反映させています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得に援助を行い意識向上を図っています。管理者・事務長にて契約更新を実施し、コンサルを必要に応じ参加していただき就業環境の整備に取り組む様になっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得等の援助及びユニット会議等で社内教育を行い職員教育に取り組んでいます。個別面接を通して個々の希望にも配慮しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修及び地域グループホーム協議会を通じて勉強の機会やコミュニケーションを図り、サービス向上の取り組みを行っています。但しコロナ過に於いて行われていないが関連施設等の交流は実施されている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期段階では管理者が中心となり各ユニットのサブリーダーを通じて、信頼関係を築いて安心確保に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期段階では管理者が中心となり各ユニットのサブリーダーを通じて、信頼関係を築いて安心確保に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期段階では管理者が中心となり担当ユニットサブリーダーや担当ケアマネにて支援方法の検討を行い、施設・地域ご家族等の介護等サービスの検討を行う。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	認知症介護の基本及びグループホームの持つ役割を教育し、利用者との関係を構築しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	運営会等を通じてご利用者様は、御家族と一緒に支え合う事を説明。ご家族へアンケートを書いて貰いご意見を聞きながら関係を築いています。また、スタッフの思い・ご本人の思いを含めケアプラン説明時にご家族に話し支え合う関係を築いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	特に入所時、関係者と協力し対応しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	御利用者様個々の状況を把握し、御利用者様同士が関われるよう努めています。難しい方には、職員にて対応して孤立しないように配慮をしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	移転先等にも伺い関係を継続するようにしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ユニット会議やケアプランを活用し 思いや意向の把握に努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初期段階は責任担当者により聞き取りを行います。(アセスメントシート)その後は担当者及び他のスタッフがユニット会議等で御利用者様の言われた事を共有し把握するよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活様子にて各利用者様の状況把握を行い、 ユニット会議やケアプランを活用し、スタッフで共有しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当ケアマネジャーがリーダー会議及びユニット会議にて情報把握を行い、モニタリングにおいてもスタッフの記録を参考に情報収集を行い、介護計画を作成していきます。またご家族に対してケアプランの説明時要望の聞き取りを実施する。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日報記録を基に生活チェックリストを作り支援し、ユニット会議で御利用者様の状況を把握して、職員間で情報を共有し、介護計画の見直しや、生活チェックリストの見直しをしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	スタッフの配置に考慮し、柔軟に対応する状況を構築しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	登呂遺跡公園や地域の人達とのふれ合いにより、支援をしている。又近隣の商業施設の利用も図り支援を行う。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及びご家族の希望を基本として受診援助を行っています。それ以外の御利用者様も当苑協力医院の往診を受け、安心した支援を行うよう努めています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当苑職員の看護師と協働し行っています。その他かかりつけ医の看護師や地域包括の看護師との意見も頂きながら支援をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関を通して行っています。又、管理者・ケアマネによる病院との連携やご家族からの聞き取り等により支援しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時重要説明書にて内容の説明を行い、現実に発生しそうな時、担当者より再度具体的に説明を行い支援に努めています。基本的に御利用者様御家族様と協力して行う事を原則としています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	基本的に医療行為については協力医療機関と連携を図り対応をする。事故発生時はマニュアルやAED取り扱いを参考に実施する。訓練は年二回防災訓練時に実施		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練等で実践力を身につけるように努めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	経営理念や施設理念等にて教育を行い実践する。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の意見を聴く機会を設ける。 リーダー会議・ユニット会議により支援につなげる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の意見を聴く機会を設ける。 リーダー会議・ユニット会議により支援につなげる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様やご家族の意見も取り入れながら実施する。 又外出援助を行うことで身だしなみやおしゃれに感心が持てるよう援助する		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	グループホームの特性を生かし 同じ空間にて調理を行ったり、出来る範囲で準備のお願いをしながら食事を楽しむ工夫を実施する。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護記録により日々の食事量の把握胃を行う。 個別対応としては関係者からの聞き取りやDr・Nr等の医療的意見を頂き援助を行う。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	御利用者様に応じて、できる方にはご自分でして頂き、自分で出来ない方には、マウスウォッシュ等を使うがい歯磨きの支援をしています。 その他必要に応じて訪問歯科受診援助を行っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様の排泄を考慮し声掛けや誘導援助を実施しオムツの使用を減らすことを目標として自立支援を目指す。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の配慮や水分摂取に心掛け、医師や看護師との連携を図り便秘予防の対策を行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	グループホームの特性を生かし ゆっくり入浴できる支援を行っています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	よく理解して御利用者様に合った支援を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	御利用者様をよく観察し、長期安定している時は、薬の事を医師に相談して減らして貰ったり、その都度症状により医師や看護師に相談し対応しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	よく理解して御利用者様に合った支援を行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	登呂遺跡公園、近隣ドラックストア、スーパー等にスタッフが臨機応変にお連れし、支援しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お財布にお金が入っていることで、安心すること等ご利用者様の思いを伝えご家族にご理解を求め支援を行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様が要望があった場合には電話、手紙の支援を行います。その際外部に迷惑の掛からない配慮も併せて行います。又年賀状等ご家族の支援もお願いしております。昨今はコロナ対策としてLINを活用しご家族とTV電話を取り入れました。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある絵や飾り、壁に折り紙で作った壁紙、デジカメで撮った写真を加工修正したもの等、スタッフの個人の技術や感性を活かし工夫をしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ユニット会議等にて検討し個々の食堂にての過ごし方やそれにより席等について検討を行い、居場所づくりに対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時ご家族や関係者より情報を頂き使い慣れた物や大切な物を用意していただくよう配慮させていただいています。その後はご利用者様に尋ねながら対応をしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の状況を踏まえ掲示物・のれん等にて不安を与えない工夫や手すり等にて安全に移動・移乗できるよう配慮し環境整備を行っています。		